

調査の目的：平成 22 年度より政庁の範囲を確認するための調査を行っています。今回は、第 180 次調査(平成 25 年度)・第 183 次調査(平成 26 年度)で確認された古代の溝 SD10900 が政庁に関わる区画溝の可能性を考え、北側へ屈曲するかどうか、溝の堆積など構造を把握することを目的に調査を行いました。

調査の期間：平成 29 年 7 月 6 日～平成 29 年 9 月 29 日（予定）

調査の面積：約 200 m²

調査の成果

古代政庁成立以前の溝 SD10900 の構造が明らかに

この溝は、幅 1.8～2.0m、深さ 0.8～0.9m で、土器や溝の埋まり方から、一般的に政庁が成立すると言われている奈良時代前半より前の飛鳥時代終わり～奈良時代初め頃に、短期間のうちに埋められたことが明らかとなりました。溝が掘削されてからすぐに埋め戻されていることを考えれば、次に土地を利用しようとしていることが分かります。

また、SD10900 は、溝の方向や構造から第 174 次調査(平成 22 年度)で確認された SD10600 の延長である可能性が高く、総延長は約 140m になります。北側への屈曲はなく、国府の地割りに沿わない直線的な溝です。溝の底面の標高が西から東へ低くなっており（図 3）、西から東へ流れる溝と考えています。第 183 次調査区の「B - B´」の部分が高くなっており、水を流すための工夫が見られます。

溝は最初に掘られてから、埋め戻した後に再掘削をして…ということをして 2～3 回繰り返しています。「B - B´」の 1 の土が最も新しい堆積です。土器がほとんど出土せず、詳しい年代は明らかではありませんが、「B - B´」の 3～10 は奈良時代初め頃までに、1 の土は中世には埋まっている可能性が高くなりました。

周囲の環境復元から二町域の東西には自然河川が存在していた可能性を考えており、調査の結果から、SD10900 は少し高くなった二町域の排水(配水)用の溝ではないかと推察しています。

政庁はどこに？

今回の調査成果をはじめ、これまでの調査や自然河川の位置などを考えれば、目標としていた政庁は SD10900 より南に位置する可能性があります。今後の調査や研究によって、政庁がこの二町域のどこに所在するのかが明らかになってくるでしょう。



調査区全景（東から）



SD10900 断面（東から）